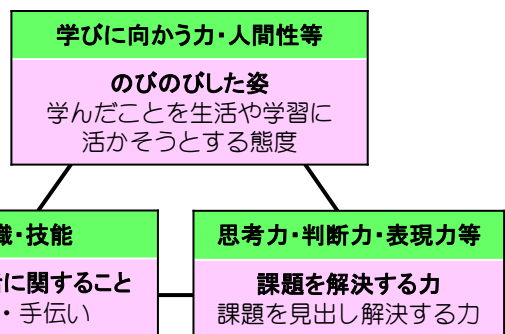


生徒の様子(中学部9名)

- 簡単な調理と基本的な道具の使用経験はある
- 学習中、一部の生徒が先行しがち
- 日頃家庭で調理することはあまりなく、学校で学習したことを家庭で活かす機会が少ない



本題材における「育成を目指す資質・能力」との関連



題材の目標

知識・技能

調理活動での様々な課題に気づき、友だちの意見等の情報を活用して考えたり、判断したりして自らチャレンジすることができる

学びに向かう人間性

様々な調理道具の使い方や調理法を知ることができる

思考力・判断力・表現力等

本題材で学んだ知識や技能、自ら考えて工夫したことなどを学校や家庭生活で活かすことができる

実践

ALの視点に立った授業づくりの工夫		経過と結果		
		第1期		第2期
		サラダ 切る	野菜炒め 切る 炒める	カレー 切る 炒める 煮る
主体的な学び	(A)具体物や半具体物 絵カードや食材、調理器具を用い、やることの具体的な意識付け	(A)絵カードからの想起 必要な材料や道具を考えた	(C)絵カードへの着目 手掛かりにして、使用する材料や道具の選択、準備が定着し始める	(A)自分で考え、手順カードを見て、材料や道具を準備できた
	(B)活動の意識付け 一人で考える「シンキングタイム」実践する「チャレンジタイム」	(C)材料名:○ 道具の名前や調理法に関しては意見が出ない		(B)絵カード活用の理解 順番を付けるものと気づき、自ら行動するようになった
	(C)一人で考える時間の設定 話し合いの際、まずは自分の考えをもつための時間			
対話的な学び	(D)話し合いのステップ 一人で考えた後、みんなで考える	(D)意見を発表し、見聞きするのみ	(D)教師を介した話し合いが成立	(D)意見を伝えあう場面が増える 「皮を剥く」「その前に洗う」
	(E)学び合いのメソッド 別紙図(1)参照	(E)調理:○ 包丁の握り方や切る大きさ、厚さを見合って活動できた 考え等の意見交換は難しい	(E)①による意見発表や活動の先行 ➡②の考えを实践する機会少ない ③の实践は○	(E)①の先行を抑える ➡②③が自分で考え、意見を述べる姿の増加
深い学び	(F)ちょっとした未知の状況を作る 左図「思考・探求・習得による授業構成モデル」参照	(F)サラダに適した野菜の大きさを予測・調理 大きさと厚さを考えながら切る	(F)火を通した野菜の変化を予測・調理 野菜が柔らかくなる気づき	(F)「煮る」のカードからの想起 ➡水の必要性に気づく
	(G)言葉にかえる 絵カードを用い抽象的な思考を育む	(G)調理道具の名称と用途の理解 ➡「洗う」を動作で表現 「なぜ？」根拠の説明へのつながり	(G)混ぜる動作を实践 ➡「炒める」という発言	(H)調理後に自己評価、カードを家庭へ ➡「週末に取り組んでみる」という保護者のコメント増加
	(H)振り返りカード 自己評価・家庭に持ち帰り学習を活かす			

考察



- ・絵カードで、操作しながら考えることができた
- ・それぞれの生徒に学習場面が用意できた
- ・学習中、発展的な気づきが見られた

(A)～(H)の実践が知識・技能面だけでなく、思考の拡がりを促し、さらに学習意欲を高めたと考える